

科学研究費補助金（基盤研究（S））研究進捗評価

課題番号	20225006	研究期間	平成20年度～平成24年度
研究課題名	二重ラセン構造制御を基盤とする新規物性・機能の開拓	研究代表者 (所属・職) (平成26年3月現在)	八島 栄次 (名古屋大学・大学院工学研究科・教授)

【平成23年度 研究進捗評価結果】

評価	評価基準
○ A+	当初目標を超える研究の進展があり、期待以上の成果が見込まれる
A	当初目標に向けて順調に研究が進展しており、期待どおりの成果が見込まれる
B	当初目標に対して研究が遅れており、今後一層の努力が必要である
C	当初目標より研究が遅れ、研究成果が見込まれないため、研究経費の減額又は研究の中止が適当である
(意見等)	
<p>本研究は、代表者のこれまでの「ラセン構造を持つ高分子の開発に関する研究」を、さらに「二重ラセンの形成」に発展させたものであり、オリジナリティーが非常に高く、世界をリードする研究である。業績的にも、著名雑誌に多数の論文を発表しており質・量ともに素晴らしく、当初目標を大きく超える成果であると評価される。特に分子レベルのラセン構造の変化を巨視的な運動に変換することを実現しており、今後のますますの発展が期待される。さらに研究を大きく進展させ、分子レベルの構造設計がマクロな物性に顕著に反映する新たな材料化学の創成につながることを希望する。</p>	

【平成26年度 検証結果】

検証結果	研究進捗評価結果どおり当初目標を超える研究成果が得られた。
A+	<p>当初の研究目的である二重ラセン構造の制御とこれを基盤とした新しい物質群の創製、二重ラセンに由来する新規物性・機能の開拓を達成するとともに、予想外の新発見や新知識の獲得など当初の予定を大きく超える成果が得られている。</p> <p>これらの成果は国際的な学術誌に質の高い論文として発表されており、学術面で大きく貢献しているのみならず、実用面でも新しい触媒、材料、デバイスへの応用において貢献を果たしている。</p>